

10月29日、令和7年度第3回FD研修会が生成AIをテーマとして行われた。

林優子副学長の開会あいさつの後、2名の講師からの話題提供が行われた。屋良健一郎ライティングセンター長からは、自身の授業における生成AIを使用したレポートの実例をもとに問題提起がなされた。学修倫理や学問的誠実性を問うことなく生成AIが使用されているのが現状であり、根本的な原因として、文章を書く以前に読めていない学生が一定数存在することが指摘された。続いて、遠矢英憲先生から、自身のゼミの卒論指導において生成AIを活用している実例が紹介された。生成AIの利用は日常化しているために是非を問うよりもどのように活用するかを考える必要があると指摘し、卒論作成において生成AI利用を必須化したこと、学生にはAIのチェックを経て提出させ、教員もAIのチェックを指導コメントにいかしていることなど、自身の実践が報告された。

その後、グループディスカッションが行われた。参加者は、①授業設計における生成AIの活用と課題、②学生の自学自習における生成AI活用の可能性、③生成AI利用と学修倫理、学問的誠実性の確保という三つのテーマで7グループに分かれて話し合い、その後結果が共有された。①では、授業構成の立案やテスト問題の作成など、教員の側も生成AIを活用している、レポートが生成AIを利用しているかどうかのチェックは困難なため教員の課題の出し方などに工夫が求められる、といった意見が出された。②では、語学の会話や就職活動の際の面接の練習に役立つという意見や、音声や動画で学修するというのは新しい学び方であるといった意見が紹介された。③では、教員が生成AIの利用の仕方をデモンストレーションすべきではないかという意見が紹介された。最後の全体討論では必修科目「アカデミックライティング」の意義についても議論がかわされた。一方で、内容にAIが関与する場合どこまで本人が書いたといえるのかという問いも提起された。

永田副学長の閉会挨拶では、専門に取り組む前の1年次教育の重要性が指摘され、大学全体として議論を続けていくことが確認された。

